

## 「行動する保守」の論理 (6)

——中国が重要だというα氏・再——

樋口直人

徳島大学総合科学部

### Logics of the ‘Aggressive Conservative’ Movement (6)

The Case of Mr. α

HIGUCHI Naoto  
University of Tokushima

#### 1. 経緯

筆者は2011年2月から現在まで、排外主義運動の調査を実施してきた。この運動については、安田浩一(2012)による詳細なルポルタージュが刊行されており、2つの賞を受賞する話題作となっている。筆者は、排外主義運動を生み出す構造的要因に関心があり、活動家への聞き取りを進めてきた(樋口2012a, b, c, d, e)<sup>1</sup>。本稿で紹介するのは、すでに一度取り上げたことのあるα氏(60代男性)に対して2011年10月21日に再度実施した聞き取りを再構成したものである。本稿で扱えない部分については、すでに『「行動する保守」の論理(1)』で紹介しているので、そちらをご参照いただきたい(樋口2012c)。

#### 2. 生い立ちとイデオロギー

右というのをどう概念化するのかわからないけど、少なくとも1970年代はいわゆる日本の歴史を否定するとか、日本の過去の歴史が侵略の歴史だったとか、そういう考えはまったくなかったのよ。反体制だってね、日本の存在そのものとか日本人のメンタ

リティのあり方がね、アジアの人たちの存在を無視とか、そういう考えとか発想がまったくなかった時代だったんだよね。

うちは職業軍人が何人かいたんでね、そういうところから子どもの頃からね、日本の戦争というのはどういう経緯を経て戦争に突入したのか、そういうのは物心つくころから耳に入ってきて。時代もそうだったし。それと僕らの育った時代は、歴史——社会科の歴史ではABCD包囲網の中で日本は戦争に突入したってそういう教育方針であったね。だからよく社会の授業、歴史の授業だと先生がとうとうとね、やってみましたよ。

#### 3. 訪中と学生運動からの離脱

その前はフランスの8月革命<sup>2</sup>というのがあって、日本の学生運動も毛沢東に・・・「造反有理」とかね。(日中友好協会)で訪中団の学習をしていったわけですよ。あの当時はまだ国交がなかったから、香港から深圳、広州、武漢、上海、北京、撫順、安山、瀋陽とか、3週間ちょっと。僕の生涯で最高の思い出というのは、あのシナ旅行でしたよ、待遇が。我々が行ったのは、30人か40人くらいの訪中団だよ。

<sup>1</sup> 調査方法や筆者の立場については、これらですべて述べてあり、必要に応じてご参照いただきたい。

<sup>2</sup> 5月革命の間違いと思われる。

移動するときには1つの列車なんですよ、専用の。それでワン・コンパートメントが4人掛けね。下2段と上2段で。そこで専用のコックがついてたよ。あと通訳ついて、医者もついてて。僕があの中で一番印象に残ってるのは、北京飯店で生まれて初めてフランス料理のフルコースを食べた、あの時代に。どれだけ我々に対しての当時の政府が力入れていたかって。

思い出とかそういうのはないから。ああいう貧しい体制って見たことがないってことだな。それはまず人々の表情が暗い。着ているものが人民服、それも擦り切れたような。それがね、日本の知識人はシナにはゴミ1つない、ハエも飛んでない、素晴らしい国だって。みんな人民は毛主席のもとで光り輝いている、これはなんだって。印象いいも悪いもそれはなかったな。壮大な旅行してきたなと思って。まだまだ18か19(歳)だからな。昔そんなに意識高いわけじゃなかったから。ただ工場だとか農村みるとね、これは話にならんって。混乱してるなって。まだプロ文革が終息してなかったから。

僕自身があの頃まだね、プロレタリア文化大革命というのは中国共産党内における権力闘争っていう概念化が全然できていないから。要するに、遅れた農村を解放しようとかね、知識人は下放してとか、そういう表面的なことしかわからないからね。それで農業は素晴らしいとか、病院は素晴らしいとか言って、汚くて・・・病室がさ。そういうモノの見方ができない人もいましたよ、「中国素晴らしいじゃないか」って。その時つくづく思ったのは、人間、心あらずんば物あれどもこれ見えずっていつてね、逆もまたいえる。「物がなくなると心があれば」ってこんなものかなって。

僕は自分の家が農家だし、高校時代はその近くの——僕は高校のとき電気やってたから——電気関係の工場とかでアルバイトしていたから、日本の農業のレベル、日本の電気会社のレベルから、それが向こうに行けばいかに遅れてるかってすぐわかるから。ただ、農業やったこともないし、アルバイトやったこともないで、ぼこっと大学行った奴は何もわからない。

それで日本に帰ってきて、丁度凄惨な内ゲバが始まるんだよな、中核と革労協で。そういうのを見てから、学校に行く気が失せて、これ意味ないって。

それで経理学校に通って。みっちりサラリーマンだったな。正社員になって働いたのは、26、7(歳)かな。それから約30年働いて。子どもたちも小さいしね、面倒みなきゃいけないし。

僕が右のほうに視点を移したというのは、こういうことですよ。学生運動とか左の運動やってる方達をみると、地に足が着いてないってことですよ。例えば街頭に出てデモ1つやるにしても、社会の共感を受けて社会運動に昇華していくという発想がなくて、はっきりいえば体制に対して鬱憤晴らし、ストレス発散。これは社会運動に結びつかないって。そこから僕は距離を置いたってことですよ。(右の運動には)ほとんど関わってない。運動から距離を引いて、それでも自分は社会人としての実質的な中身を身につける、そっちのほうにいったわけです。だから僕は学校(大学)もやめたし、仕事しながら(経理)学校に通ってまず社会人になって。国家に対して納税の義務を果たす、家庭を持つ。それが最高の愛国運動じゃないかと。

#### 4. 天安門、チベット問題と右派市民運動

僕はほら、日中関係のいろいろ関係あったし、それとうちのすぐ上の兄が、秋田出身の——片親が秋田の人で残留孤児で秋田に帰ってきて水墨画家がいたんですよ。その水墨画家が東京で個展を開くって、確か天安門事件の2年前くらいだったかな。その頃来るってのは国費留学生とか、特別なコネがある人で、その残留孤児の日本人が東京で個展を開く時に、シナ人の留学生の友達が何人か来ていて、それで僕は知り合って。今の日中友好会館(で)——あそこ昔、善隣会館っていうんだ。そこにシナ人の留学生がごしゃつといてさ。

僕は住まいが文京区の白山で、それもあったからしょっちゅう会いにいった。それで俺は趣味が卓球だったから。あそこに立派な卓球場と卓球台があつてね、よく遊びに行っていた。日常生活で元々そういうものはあったし。少なくとも僕はほら、話ができるから、そっちのほうの話が。普通の日本人はそういう話できないでしょ。シナの問題とか。

その時いきなり天安門事件が起きて、シナ人留学生が一気に反体制で反政府で、これはすげえやって。これで決定的にシナの社会主義体制ってのが、学生運動、学生に対する弾圧のなんか見たし。その時は

天安門事件の支援とかに関わってたよ。留学生の支援運動とか、あの時は中国民主化同盟ってのが発足したのよ、日本国内で。その支援運動いっぱいやったよ。シナに対してね、日中友好協会とか共産党批判できなかった。あの虐殺に対して。(自分としては)「何だこりゃ？」って。あと日本政府も。

右の運動に深く関わってきたというのは、やはり酒井先生とチベット運動やってからだろうな。あの方はずっと1人でチベット運動やってた。チベット独立運動。それで東京大学の教授の身分でね、1人でデモ組織して、シナ大使館に抗議に行くとか、今から20年前の産経新聞、それを非常によく報道してたんですよ。こういう方たちがやってるといって。産経新聞が住所とか電話かいてあったから、コンタクトしようと思って。チベットがどういう状況におかれているのかは僕がわかっていたし、でもね、日本で運動するのはほとんどなかったわけだ。そのころ、酒井先生が立ち上げて。(それに至る)間は一切空白の・・・(運動に関わっていない期間)。酒井先生の持論は、「これはシナの、シナ人の民族性に属していたんだ。中国共産党が崩壊したからってね、東トルキスタンとチベットに対する侵略がやむか、そういう問題じゃない」って。あのころから独自の自分の理念を持っていた人で。しかもそれが実践を伴って。

元々ね、チベット運動というのは右の人がやるかそういうことじゃなかったのよ。要するに、人権、ヒューマニズムの運動だった。その右とか左とか何もなかった。ただ僕がやる時は、日の丸を掲げてやってたよね。というのは1つにはすでにその時から尖閣問題がクローズアップされてたから。あと南京問題も絡んでね。そこで日本の独自の、日本人としての存在を示すという形で日の丸出したんだよね。その当時は、日本の保守はそういうのまったくなかったわけよ。運動というのは、はっきりいって皆無だったんだ。だから、日の丸掲げて表に出ることできなかったんだから。ましてや街宣するとかね、街頭で演説するなんて・・・。ついこの3年くらいでしょ、できるようになったのは。それまで全くできなかったよ。

(南京大虐殺の時には)街頭(行動)というよりも、シンポジウムだとかね、あとそれとかいろいろ教職員組合が南京大虐殺の映画の上映するとか、そ

ういうことに対して「一体これはどういうことなんだ」と地方自治体に乗っ込んでいって中止させるとか。慰安婦映画でもね。あとシンポジウム。(人数としては)よくて10人集まるとか。デモだって20人集まるかどうかとか。

(チベット・ウイグルと日本との関連) 周辺諸国に対するシナの膨張だから。日本とて例外じゃない。必ず日本に来るわけですから。ただ、ウイグル、チベットに対する拡張政策と、日本に対する政策は手段が違うわけだから。ウイグル、チベットには武力弾圧でいくわけですから。日本の場合にはそうじゃないですよ。日本に対する侵略三段階論。第一段階は精神侵略、教科書とかイデオロギーの問題。第二段階は人口侵略。最終的には何かあったら武力でもって制圧。僕はその第二段階はほぼ終結したと思っている。だが、第三段階は行使する可能性は少ないんじゃないんですか。武力でもって制圧するのは最悪の手段だから。そこまでやる必要はないでしょ、日本(に対して)は。日本は抵抗しないから。

(長野のオリンピック聖火リレーで)指揮運用したのは軍隊ですよ。投入されたのは留学生の人たちだろうけど。それを加味したのは、完璧にプロの軍事集団ですよ。こういうことなんですよ。日本人はお金持ちだ——まあ今は貧乏だけどね——かつては日本人はお金持ちだって。じゃあ僕がお金持ちかっていうとそうじゃない。僕はそこはちゃんとわかってるから。シナ人がこうこうこうだって、じゃあ僕が付き合うシナ人がそうかって、それはぜんぜん違う次元。僕はあくまで民族運動としてやった場合、シナ政府の進める1つの政治的な傾向っていうのは、明らかに日本人口侵略しているっていう。これをもって僕は言っているわけです。それとね、僕は個別に付き合うシナ人、ぜんぜん次元が違う問題。とんでもない奴もいるし、日本人もかなわないような人格の整った人達だっているわけだし。

僕はあくまでもそこはね、政治運動、思想運動としてそこを貫くわけであってね。そうすれば、一般的な映像とか何かみれば、僕も断片しかわからないですけど、それは運動をやるうえでの骨子だから。ただ僕は、一時かなり煽ることをやったのは、なぜやったかという、意図的にやりました。日本人は能天気だから。保守が何やってるんだ、と立ち上げてやったけれども、それはもう行き過ぎてるね、今。

僕はそれを手段として使うべきであって、目的にはしない。

それとね、どんな人間が来たって日本人が強ければいいんだから。日本人が弱いんですよ。日本人が弱くて負けてしまうから。例えば電車の中に乗ってね、シナ語でべらべらしゃべるのをみて、ゴミ出しだって日本人が黙ってれば彼らはそれを当たり前だと思うんだから。だからこっちの問題であってね、日本人が弱すぎるんですよ。

前は(中国関連なら)皆同じ(人が運動の担い手)だったのよ。やる人が本当に少数の人で、全部かけもちでやってた。オールラウンドプレイヤーだな。僕は何でもやったし、(他に人が)いなかった、やらなかったんだから。だから僕は台湾問題だって慰安婦問題だって、何から何まで全部最初の初期の——拉致問題だってそうですよ。初期の拉致問題、僕はずっとやってましたから。あの時は、誰もやらなかった。日本会議とか、頼みに行ったらやらなかったんだから。

拉致の問題に関わった時期ね、日本の保守たちは拉致なんか、小泉が行って初めてなわけだから。それまで誰もやらなかったわけだから。僕はなぜ拉致問題から手を引いたってのは、あの時代、この問題を国家間の交渉に持っていきってやっていたわけですよ。小泉が行くってそれで終わったわけですよ。そうしたら、それにどういふ人間が来たかといったら、今までわかって動かなかった人間が、おいしいから来た。お金の問題だよ。政府がお金出すわけですから。あと募金とかカンパとか、いっぱいお金集まったんですよ、恐らく。来るなっただって来るんですよ。

## 5. 女性国際戦犯法廷に対する行動

《河野談話に対する行動》

(河野談話には)抗議したけどね、保守が動かないんだもの。僕ら一介の市民だからね。いろいろやったりはしているよ。具体的には自民党に出した。自民党がやったわけだから、抗議文とか出したってこと。これがね、必ず何かのアクション必ず起きますよっていう、(アジア女性)基金に始まって最終的には松井やよりがやった女性国際戦犯法廷、これは大成功したんだからね。あれだけ海外から人集めてね、報道して。その後、世界に定着したんだから、

あれは大きいですよ。それに対してこれに異議を唱える保守の人達って、まったく無抵抗だったんですよ。

それは名誉に関わる問題でね、南京大虐殺とか仮にあつたって戦争だから。慰安婦強制連行って次元が違うから。まったく次元が違う問題だから。まともな意識ならこんなの黙ってられませんよ。仮にあなたのお父さん、親族が朝鮮半島で女を片っ端から強姦してトラックに放り上げて、満州行って売春宿に売りつけた——到底受け入れられませんよ。この人たちの言っていることに欺瞞が、偽善が満ち溢れているから。この人たちが本当に思うのなら、なぜ自分達の身銭切ってやらないのか。自分達の家屋敷売ってね、補修にあてるとかそういうことをしないのか。「同じ日本人が謝罪していないのに、私は謝罪している、偉いでしょ、素晴らしいでしょ」こういうことだから。

《女性国際戦犯法廷に対する街宣》

(街宣をかけた理由)だって九段会館でやってるんだから、表(に)出ざるを得ないからじゃないですか。九段会館と日本青年館。今みたいな映像も手段もなかったし、写真もとってないけどね。(人集めの方法は)ファックスとかそういうもんですよ。知り合いしかいないから。その当時、右はまったく反応しなかったんだから。保守のね。一番ひどいのは、英霊に答える会とか日本会議は、九段会館に事務所持ってるんだよ。

(街頭行動するのは)アピールできるからですよ。存在を。あと、1つには日本の保守って本当腑抜けなの、早い話が。今でこそ皆やって大丈夫だと思ってるけど、昔はとにかく出られなかったんだ。解放同盟批判したら何されるかわからないとか、そんなことばかりやってたんだから。本当、肝っ玉小さかったよ。

それ(街宣したのは)学生運動の経験があるから。

(保守には)そういう作法が何もないのよ、手段が。だいたいこんなもの、昔みんな左翼がやってたんだから。横断幕作る、プラカード持つって。こういうのがまったくなかったのよ。だから珍しかったわけですよ、僕の存在が。右には活動家がないの。要するに日の丸掲げる側においてはね、活動家ってのはいないのよ。おしゃべりや話し会でね。講演会だ

とかなんかね、それはやるけど、役所に乗り込んで、「今日やってることはどういうことなんだ、おかしいじゃないかと。手続きに瑕疵があるじゃないか、どうなってるんだ」。こういう形できちきちと1つ1つ詰めていって、落としどころを見つけるってのが。

基本的にはまったく日本の保守陣営が反応できないなかでね、抵抗する日本人がいるんだよ、と。海外の取材がすごい多かったのよ。そうするとね、日本人が——仮に僕らが運動をね——日本は言論の自由が保障されているわけだから。その前に九段会館に掛け合って、1週間以上、2週間近く掛け合ってたんですよ。中止させろと。あれは遺族会の建物でしょう。「靖国神社に祀られている方達がね、そういうことをやったってね、それで落ち着けるんですか」。それを自分の建物でやるわけだから。何回も行って交渉したんだよ、支配人がノイローゼ気味になったわけね。あの時の遺族会の会長ってのは古賀誠、みんな保守だ、自民党の。

それをずっとやってましたよ。こういう人たちがいるっていう存在を知らしめる。海外のメディアはやってくれましたよ。俺達右翼だって。反対している人がいるんだよって。でも日本のマスコミは一切報道しない。

結果としてはNHKの放送を中止させた。日本のマスコミがちよっと報道したってのは、NHKの放送が中止になった時ですよ。右翼って形でね、右翼が乗り込んできたって。だから僕の運動の1つの中身は、右翼っていうイメージを払拭することが大きかった。普通の通常のサラリーマンが普通の服装で、堂々と表から玄関のドアノックしながら入って抗議するって。日の丸掲げるってこと自体が右翼って、それが定着したわけだから。

でもその時点での中止は成功だったかもしれないけど、その後アメリカやヨーロッパでも続々と決議されているところみればね、かえってあそこでNHKが昭和天皇が断罪されている放送してもよかったんじゃないかと思えますよ。僕はそれに絡んでいろいろ刑事事件に発展してるんだけど、巻き込まれたりなんかしたわけだし。これがいいか悪いかはまた別の話。

街宣右翼の影響でもって——あれは非常にマイナスだ。朝日新聞は、「右翼ってこういうろくでもない

奴がやってるんだ」って、そう思われるわけですから。少なくとも運動を5年(前に)立ち上げた目標の1つは、誰でも日の丸を掲げて表に出られるってことだからね。辻立ちできる、それと「シナ」って言葉を使える。これはもう目的果たした。

#### 《なぜ街宣するのか》

だって慰安婦強制連行ってのは冤罪だもの。あれはプロパガンダの集会だからね。日本は言論の自由が保障されてる、お互いに言い悪いは別にしてね。僕は僕なりの道理を説く根拠ってのはあるから。それを持ち出すとほとんど議論はならなかったよ。だって元々は、慰安婦っていうのはあったわけだから、昔から。なぜ当時間題にしなかったの。慰安婦はいたけど、慰安婦問題ってのはなかったわけだから。何回も言っているように、生産力が極端に低くてね、まして朝鮮半島なんかもっと貧しかったわけだから。

日本の国内で親兄弟がたくさんいて、女の子がいたらね、貧しくて大した学問をできない状況だった女の子だからね、昔だったら玉屋だとかああいうところで働きやってた。日本列島でいっぱいあったんですよ。そこでは朝鮮人も働いていたし。それでもって朝鮮の慰安婦がね、日本人をお客にしたからって、なぜ日本人がそれに対して謝罪しなければならないかって。

慰安婦問題に関していえばね、映画でDVDとか出ていると思うから、溝口健二の「赤線地帯」って一度見たらいいと思うな。今、スカイツリーができたところ、昔の遊郭、そこにいわゆる公娼制度の廃止される前後を描いた映画だよ。なかなか優れた映画だよ。ああいうのを見てると、当時の公娼制度ってのがよくわかるね。

僕はよく街宣でやる言葉は、松尾芭蕉の奥の細道にね、あの中に遊女が出てくる場面があるんですね。芭蕉が山形から新潟をって行くときに、ある宿の中で隣の部屋に年老いた男のオヤジさんと娘が2人とまって部屋に、隣同士。お伊勢参りに行く娘をオヤジさんが新潟のどこかまで送りに来ているんだよ。一晩ね、自分はそういう社会に身を投げなければならぬ、その境遇を、松尾芭蕉が聞いているんだよ。その上で松尾芭蕉は、「一つ家に遊女も寝たり萩と月」っていう。萩ってのはね、我々みたいに根無し草みたいなやつ、風に吹かれてぷらぷらして。遊

女ってのは天空に輝く月だって、そういう風にして、遊女に対するオマージュとして日本の文学史に輝く句だよ。当時の人たちが遊女をどう見ていたかって。近松門左衛門だって、道行の場面なんてのはね、心中というのをいくつか、当時の遊女の世界を。日本社会というのは、当時の売春婦に対するどういう態度で臨んでたか、そういうのもよくわかるし。

だけど考えてみれば、日本は商業社会が発達したから、その子ども達が遊女とはいえ、社会が救う体制にあったということは、角度を変えればそういう見方ができる。ある意味じゃ遊女にすらなれない境遇が、シナ大陸とか朝鮮半島にあったわけだね。だから朝鮮半島なんか、妓生という形で身売りされてね。芸とかなんかを仕込まれて。日本のは、金学順って人が妓生として修行って行って。あとは当時日本人の娼婦も満州にいっぱい行っていたのよ。朝鮮人従軍娼婦として、朝鮮も当時は日本だからね。ソ連が進攻した時ね、こういう人たちがどういう境遇にあったのかって、凶暴なソ連兵が来るわけだから、あの人たち体張って相手して、そういうのがいっぱい残っている。ただそれは日の目を見ていない。その人たちは、絶対そのことで自分達の境遇を世間に訴えて泣くってこともしなかったし、ほとんど年老いていないだろうなあ。日本人はそういうことしなかった。今の朝鮮の慰安婦みたいにね。だから、僕の疑問は、あの人たちだって好きでやったわけじゃないから、日本人と同じで。別にお前達卑しい商売なんてそんなことは僕は1つも言わないし。

そういう風な境遇にいかざるを得ない社会の貧しさがあったわけであってね。日本も朝鮮半島も同じだし、世界にそういうところいっぱいあったわけだね。常に女の人はずいぶんところの犠牲になっていたわけであって、何も日本は国策として朝鮮半島で軍隊を使って朝鮮の女性を強制連行して、そんなこともないわけだし。それは実証もされてないわけだし、ないわけだから、事実として。もしそれがあつたとしたら、それは個人的な犯罪の問題であって、日本の国策とか何とかとは違う話であって。そこを事実挙げて冷静に話し合えばいいんですよ。ただ、僕はそのままやってきたけど、そういう風に答えることはないね。

## 6. ジェンダーと保守主義

《婚外子差別での騒動について》

ああ、外務省でやったシンポジウムでしょう。この問題も裁判で決着済みの問題だよ。あれは外務省でやった婚外子が、要するに私生児が差別受けてるとかね、そういう問題だったんだよ。僕自身も忘れた。僕は今裁判6つ抱えてるんだよ、何が何だかさっぱりわけわからなくなってるんだよ。唯一勝った裁判だった。その時、日本の保守の人たちが——婚外子の(問題は)差別だということを支持する人たちが圧倒的に多くてね——こっちが少数で全然ダメなんでね、俺に声かかってきたんだよ「ちょっと来て」って。それで僕が行ってやったことだった。それが要するに差別だって。

面白い話はね、そこまで僕が堂々とやってね、それで裁判にかけられちゃって。それで呼んだ日本会議の人たちは全然知らんふりしちやって。「家族と何とかを守る会」の彼女が僕に直接電話してきて、「何とかお願いします」。で、裁判となったら声をかけたのも知らんふり。そういう意味でね、日本の右とか保守ってのは、ものすごく冷たいんですよ。でも僕は世の常人の常だと思っているからどうでもないけど。別に頼まれたから行ったわけで、説明聞いてこれはしょうがない、とんでもないと思ったから(発言した)。

僕が発言したのは2つだったんだよ。フィリピンと日本人の間に夫婦がね、夫婦の問題で夫が自分に手を出した、そういうこと縷々述べてさ、これがフィリピン人に対する日本人の差別だっていうから、「そんなもの、ただの夫婦喧嘩だろ」そういうこといったんでね。あともう1人の人が婚外子、婚外子っていうから、俺はそれまで婚外子って言葉知らなかったのよ。私生児だろと言うから「それは差別だ」っていうから、私生児って何かって言うから、結婚してる相手がいる不倫の子じゃないか、といった。それが名誉毀損だって。それで裁判になった。私生児に対して嫡子の子どもと同じように相続を与えるというのだったら、本妻に対する差別じゃないかと。家庭の崩壊だろう、という形で自分の議論をとうとうと述べただけど、向こうが大騒ぎして流会になったんだよ。

(それは)持論というより、当たり前じゃないかと思ってるね。少なくとも、僕の生まれてきた家庭教育の中では、旦那がね、不倫の末に生まれた子ど

もに対して、子どもと自分の子どもと同じ財産分与。不倫の子どもは不倫の子どもとして、母親がしっかり自分で育てていけばいい。じゃないとね、ちゃんと操を守った女性に対する差別ですよ。そんなことやったら家庭が崩壊する。私の持論。僕が積極的に言ったわけじゃない。とんだとぼっち受けちゃった。

#### 《DVの講演会中止について》

あれは離婚を勧める講座かなんかだったんだよね。一体これはなんなんだと。僕はその人（講師）は知らない。本をちらちらと見たことはあったけどね。大体、税金でもって役所が離婚する講座を開くのは一体どういうことなんだと。家族の絆を深める講座とかいうのならわかるけども。一体これはどういうことなんだと、僕は乗り込んで行ったんです。説明責任を求めるために。それに対してね、きちっと答えられなかったのよ。

（抗議に行ったのは）僕と女性が3人いて、だいたい4、5人だよ。普通の家庭の主婦ね。子ども達を社会人にさせた、家庭の主婦。田舎だからな、あそこ前でちゃちな抗議用のトラメガでやったの、そんな驚くほどのものじゃないけどな。（抗議に来るよう頼んだのは）地元の人。そこには女性もいたけどね。なかなかしゃべる人がいないじゃん、しゃべって交渉する人が。結局、僕みたいに乗り込んでいってね、丁々発止でさ、ものを理詰めで言って相手を問い詰めて、落としどころを見つけて決着をつけるという、難しいんですよ。

それで、これは一般の感情からして許されないよと、つぶすわけにはいかないからディスカッションするか、また別の場で我々の発言の場を用意しろとそういう要求したわけよ。そうしたらすぐ中止しちゃったのよ。これ非常に事なかれ主義なのよ。両方の意見をやらさせればよかったのに。言論弾圧ってのはね、非常に——はっきり言って言論弾圧したのは役所なのよ。ジェンダーを主張する人たちの見解も否定したし、それに対する市民の——一般の人たちの声もつぶしたわけですよ。だから役所叩かなきゃならない。

（他の保守団体と意見自体に乖離は）ないでしょう。僕の場合は、言うこととやることを一致させるということだから。（保守は）ただおしゃべり集団だ

から。俺よりはよくしゃべるんじゃない、僕は勉強してないから。だったらあの人たちが乗り込んで言ってやればいいのよ。それが全然動かなかったというのでね、そこに住んでいる人が声をかけてきたのよ。だからまた僕が行った。これは裁判にならなかったからよかったけどね。市長の自宅まで行ったんだよ、なんではっきりさせないんだって。俺にも発言の場所を用意しろって。

私とその人と会えばね、「なぜあなたは離婚するんだ、もっとそこに深い理念があるはずだろうと。それは何か」って意見を交流する場がなかった。僕は離婚したことない。別れたいとは思うよ、しょっちゅう別れたいと思ったけど、うちの女房強くてね。夫婦って男と女の間だから、いろいろ外から見えないいろいろなものがあるわけだからね。それは一概には……昔から日本には三行半って離婚はかなりあるわけで。

やめさせた講師とディスカッションとかそういう条件があれば、ゆっくり話し合うことができただろう。けどね、行政は一気に中止した。面倒くさいから。それで、女性の側は街宣をかけてつぶしたとか、話が全然違うところに飛んでいっちゃっている。これは俺としては釈明させてもらいたいよ。今から（でも）遅くない、いつでも話しますよ、僕は。時を経て。僕のね、夫婦、男と女の問題はシンプルでそういうことですよ。

でも中にはどうしようもない事例もあるわけだからね、それをいろいろ行政が介入しなきゃいけないものもあるけど、それは特殊な問題であってね。離婚ってのはね、もっと必死の力があるんだよ。核分裂と同じで。核分裂でどれだけのエネルギーが生じるかって。くつつくのは簡単なのよ。そんな別れる時に問題起こすわけでしょ。簡単に行政がこれがドメスティックバイオレンスとか、介入する問題でもないと思ってる。あと、うちは2人とも娘で間もなく結婚するんだけど、そう言っている。何だかんだと選んだのはお前だ、と。俺が選んだんじゃないよ、俺は見立てはしてやる、選んだのはあんたなんだからね、と昔から言っている。

（在特会はそういう問題に関心が）まったくないでしょう。こういう人たちは。言ったって意味わからないんじゃないの。だってまずほとんど恋愛したこともねえだろうし、彼女いるわけでもねえし。は

つきりいって精神的に片輪みたい奴が多いから。よく言ってるんだけどね、「デモとかに女1人くらい連れて来いよ」。色気がないよな、保守のほうの女の人たちは。女はイデオロギーと勝負事にのめりこむと、女らしさがなくなってくる。非常に大事なことでね、男と女の場合は、男はあんまり関係ないのよ。女の人があるものすごい変わりやすいね。僕は長い間サラリーマンやっけてきているから、会社リタイアした後だって会社関係の仕事やっけてきたわけだから。

そうすると、男はね、独身で年取ってもあんまり変わらないのよ——「ああ、独り者かな」ってわかるよ。でも女の方は変わるんですよ。独り者でいるとね、そういう心身の影響を、そういう条件から受け易い、影響与えられ易いって。だから若い人たちに言うんだけどね、とにかく学生だったらまずしっかり勉強しろ、単位とって。その上でね、運動とか何とか二次的三次的なもので、学校の勉強で「今日はいやだから街宣行くか」、これはご法度だった。そんなら来なくていい。社会人だったら、しっかり会社でステータスをもって仕事のノウハウを身につける、その上で好きな相手を見つけて家庭を持つって。これが最上の愛国運動なんだよ、国家に納税の義務を果たす。やることねえから日の丸掲げて、それが愛国運動でもなんでもない。僕はそれを口酸っぱく言っている。だから来なくていいと。

## 7. 行動する保守との関係

桜井君が僕のところにきて運動やるようになったのは、いつ頃かな。彼と僕ね、最初に会ったのは——確か銀座で慰安婦の署名運動やった時があったんだよ。その時、僕は明確に彼は——その時は彼は普通の格好だったよ。あんな奇抜な服装してなかった。(当時の若者の参加者は)ほんのちょっと。平成19年の頭の頃からだな。6月とかは僕のところに来なかったから。このとき初めて彼の顔を初めて見たんだ。これが平成19年4月だ。桜井君も、来たときには二言目には「今日は逮捕されないでください、警察と揉めないでください」。その度に俺は怒鳴ってた。何やっっているんだと。それが今は完全に逆転でとんでもないことやっちゃってるけど。

(そういう人が参加するようになったのは)3年ちょっと前からでしょ。僕がちょうど(ネット配信を)やり始めて。大きいですよ。インターネットが

なければ、僕らはなかなか上に行けませんでしたよ。

(戦犯法廷の時には)インターネットがなかった。あつたけど、使う人ほとんどいなかった。それこそ少数で……いや、人は来てたかな。ネットとかファックスとか手紙とか。ほんの少数の人でね。

(新しい知り合いは)みんなネットですよ。今、それしか手段ないでしょ。(ネット以前からの付き合いは)何人かいますけど、地方にも結構(いる)。1つは通信手段としては革命だったんですよ。(左派は)週刊金曜日とか、システムとして整っているからね。それが(右派も)3年前に一気に拡大したのよ。あれ(インターネット)はやっぱり大きかったな。いい悪いは別にして、一気にこれが1つの武器になっているわけだから。それは左にまったくなかったよな。(右は)他に何もものがないから、こういう手段を見出した、そういうことなんだよ。(それまでは)ファックスしかないわけだから。

それと、左の人たちみたいに運動の経験がほとんど皆無で実績もないから、情報を共有する媒体がないわけですよ。まったくないわけですよ。ネットワークもない。まったくないわけですよ。そこにインターネットが出てきたって。それが一気にばーっといったわけですよ。それがまた下火になっちゃってる。じゃあネットでね、日本の運動なんかね、質的に変えることができたか、まったくないですよ。本来だとネットで参加してきた若いやつを昔みたいに徹底的にオルグしてやればいいんだけどな、今はそういう馬力もないしな。昔はやったのよ、デモで呼んで来たら2人1組になって、頻繁に当たるって。共産党って左翼もみっちりやっていたわけだけども。本来そういうのやればいいんだけど、今、そういう時代でもないしね。でも僕は、左とか共産党で熱心に来てきたのを見て、その結果が良くなかったのを見ているんですよ。運動を継続しようとしたら、目の前の目の前のデモとか何かに人を動員する道具みたいな扱いしちゃダメだよ。学生だったらしっかり勉強して就職するって。時間を見つけてとにかく読書にいそしんで、若いうちに趣味の1つや2つ身につける。

初めて運動を目指しているいろいろ試行錯誤してね、一番注意したのは服装ね。人間の形式と内容とは一致するものだって。物事は形式と内容は統一するわけであってね、服装が乱れた人間が社会に訴える、

どんなにいいこといったってね、汚いなりして汚い頭ぼさぼさで、誰が話し聞きますかって。でもなかなかこれがね、今の時代受け入れられないんだ。しょっちゅう言うとうるさくなってくる。若い人が僕から離れていく一番大きなのはそれかな。僕の理念について来れないかどうかわからないけど、大した方針の問題じゃないですよ。普通のちょっとしたマナーとか、そういう問題なのよ。運動の量的なものを蓄積して思想にいく前の前の段階だから。

(人数が増えたことの手応えは) 何を持って手応えにするかだね。僕は在特会とかネット保守と違って、騒ぐのが目的じゃないから。やったアクションに対して、結果をどういう風にアセスメントするかってことだから。効果だから。僕の場合は、例えば日教組の教師——扶桑社の本の白拍子本とか、あれの勉強会だとか何かでいろいろなことをやった教師を処分させるだとか、南京や慰安婦映画の上映中止だとか、いろいろやってきたよね。集英社の漫画本の連載中止だとか。

それは仕事として、騒ぐんじゃない。たとえそこで中止とか結果が得られなくても、「次回から問題が起きるんですよ」という形を作る。仕事をするのが僕の仕事、そうするとそれには人はいらんのだよ。人いたって仕事はできない。チャンネル桜であれだけ人集まってね、結局何を待たんだって。何も無い。今お台場で騒いでいるとかね、どなたがやってるかわからないけど、目的は何なのか。何を言うためにやっているのか。落とすどころは何なのか、まったくないままでやっているから。僕とは運動の次元が、世界が全然違う。

それ(人数)でもって何か仕事ができなかったっていうと、ないんだよ。仕事するときには2、3人でいいんですよ。本当の圧力になるんだったら、3000人、2000人、まあ500人までいいけどね、集まってくれば僕はいろいろやりますよ。でも、ここという時にはこないですよ。たとえばKKRの土地の売却問題。普段あれだけ領土死守だとか竹島奪還という人がね、目の前のこととなるとやらないんですよ。わからない、僕は保守のメンタリティというのが。僕は保守じゃないから。日の丸は掲げてるけどね、いわゆる保守と僕は違ってね。

大いに失敗して、大いに試行錯誤して、そこから自分達の思考を凝縮するっていう、そういう意識も

ってもらえばいいと思っている。そのためには、やっぱり運動して失敗しないと思うがな。基本的にはみんな鬱憤晴らしにきているから、ストレス解消。不条理みたいなのを抱えてそれを発散する場がない。インターネットの動画とかなんかで見てきたっていう。つまりは感情だよ、気分だから。自分達のやってることを、日の丸掲げることによって自分達の行動に正義っていう愛国の味付けしなきゃならないんだから。日の丸持つこと自体が自分達の運動の正統性を保証してくれるわけですよ。彼らの考え方は。

それともう1つは、基本的にああいうネット関係の、今どうかかわからないけどもね、基本的には定職についてないんだよ。あと家庭を持ってない。結婚して家庭を持って子どももない。そうすると、これはなにかといたら、守るべきものがないんですよ。守るべきものがあれば、こういう政治思想運動やったら、そこに1つのコントロールが働くんですよ。しっかりしたコントロールが。だから、特に保守と日の丸掲げる人間が定着しないっていうのは、そこなんです。結局、責任がないんですよ。責任がないってことは、プライドもない。

(女性の保守団体は) 最初は僕のところにきてやってたけど、僕のことわからないんだよ。あの人たちさ、僕の表面上の街宣やっているとところとか、アクションは見たけど、僕のこういう話はなかなかわからないんじゃないかな。街宣の仕方とか、みんな僕のほうで——別に教えるとかそういうことじゃなくてね。ただ僕はいろんな節目節目でいろいろ忠告するからね、それがやっぱり嫌かどうかそういうことじゃなくて、段々違いが——違うんだなという感じで距離を置いてくるし。僕のほうから行ったことはない。

(そういう人たちは) 筋を通せないな。僕らは筋を通すということだから、動じないということだね。たとえば一緒に運動やった人たちがね、警察といろいろ厄介になるとかいたら、必ずきちっと同じ仲間として最後まで面倒みることとか、そういうところも極めて弱いから。それと、日常生活でもそうだったね、なかなかお付き合いできない。はじめの問題だとかね。ただルンルンルン、デモで僕の後ろで騒いでいる分にはどうってことないけど、自分たちが当事者として問題を処理するとなったら、そ

れはもう難しい話ですよ。そういうのいくつかあったからね。

(活動家は) おばちゃんたちいるけどね。そよ風の人は昔からよく知っている。そよ風にいるおばちゃんたちってというのは、昔から知っている人であり若手の主婦であり。花時計ってのは、そよ風から分派したんでしょ。それで事務所に来た時、僕は何も僕の真似して女の人たちが街頭でマイク握って何になるんだ。それより女の人だったら夫婦別姓の問題とか、そういう問題で地域で2、3人でいいから学習会やって取り組んでいく。まずそういうのを1年くらいやってから、それから街頭とかで訴えたりするのであって、順序が逆だと思う。僕は、立ち上げに際しては否定的な見解出してたんだよ。どうしてもやるっていうから、1回渋谷の(街宣の)段取って作ってやったし。その後、いろいろネットでへんな奴からバッシングされた時ね、すぐ受けに入っちゃったから。「あたしは家庭の主婦だから、表に出て行きません」とか。「介護してる身ですから」とか。そうしたらあんたは何言ってた、今まで、と私は意見した。それは彼らにすれば怒られたと思ったのかな。

(そうした女性たちは昔から運動を) してないししてない。たとえば教科書問題とかで集会やる時に手伝うとか、受付やるとか。そういうレベル。だからこそ、地元の公民館とか自分の子どもの行っている学校のこととか、そういうのをじっくりやる運動を作ったほうがいいよ、と。これ、いい悪い別でモノの考え方が違うんだって。

左の人たちはそれ(根を張った活動)をずっと長年追求してきているわけですよ。そういう問題をね。一番あれ(保守)にとって足りないのはそこなんです。僕はこういう身分だから表に出たり——だけど子ども達が小学校中学校高校のとき、僕はPTAの役員をみっちりやってきているし。そういうことをやらないの、保守の人たちって。あれだけ教科書問題とかでいろいろやっている人たちが、自分の学校の子供達、孫達の学校で何かやったか、まったくやらないもの。それで集会やれば出てきてさ、酒飲んでかっくらって人の悪口いって、それで愛国運動やって、と。この脆弱なメンタリティなのよ。

## 8. 結語に代えて

α氏は、排外主義運動のなかでの有名人である。これまでみてきたように、その「実績」も排外主義にとどまらず幅広いが、全般的なイデオロギーとしては日本会議のような極右の主流と大きく変わらない保守主義であることがわかる。彼我の差は、α氏自身が述べるように、言っていることを実際に過激な行動に移すか否かであり、その意味で「行動する保守」という自称は誤っていない。言説で留めると実行するのでは大きな差があるとはいえ、日本の保守主義に深く根ざした部分を、排外主義運動が持っていることは確認しておきたい。

その上で問題は、「人口侵略」のような珍説にもとづき排外主義が突出するのはなぜか、ということではないだろうか。在特会は、この部分を純化してそれに特化した運動を展開しているわけであり、保守主義に根ざしたものとはいえない。この点の解明はまだ端緒についたばかりだが(樋口 2012f)、今後明らかにすべき課題として明記しておきたい。

## 文献

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)~(7)」『徳島大学社会科学研究所』25号。  
 ———, 2012b, 「在特会の論理(8)~(9)」『徳島大学地域科学研究』1号。  
 ———, 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)~(3)」『徳島大学地域科学研究』1号。  
 ———, 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8号。  
 ———, 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45号。  
 ———, 2012f, 「排外主義運動のマイクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9号。  
 安田浩一, 2012, 『ネットと愛国——在特会の「闇」を追いかけて』講談社。

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。